

パリ万博はこうして始まった

19世紀に起こった新しい産業の波は蒸気機関車や自動車、電気など新しい機械やエネルギーを産みだし、大量に製品ができるようになってきた。安くて良い製品がたくさんできて、広く世界にゆきわたれば、みんなの暮らしが楽になって、豊かな社会が生まれる……。19世紀に5回もパリで開かれた万博はそんなユートピアの実現をめざした姿だった。

シュバリエが描いたユートピア

ナポレオン3世の時代、経済顧問になったミシェル・シュバリエ(1806~1879)は、万博をはじめ様々な産業政策をおし進め、フランスをヨーロッパを代表する国にした。

1. 当時のフランスは政治も不安定で、一部の裕福な人々(貴族)はいたが、多くの民衆は貧しく悲惨な生活をしてきた。シュバリエはそれを何とかしたいと思っていた。

2. そのころ海の向うのイギリスでは産業革命が進み、ロンドンで最初の万博が開かれた。万博のアイデアはフランスが先だったから、シュバリエは大いに悔しがった。

3. これからのフランスに必要なのは、銀行*を創り、産業をおこし、国中に鉄道を建設*することだ。そしてそんな産業社会の良さを国民に知ってもらうことだと、シュバリエは考えた。

4. 安くて良いモノが民衆にゆきわたり、暮らしが豊かになる産業社会の良さをわかってもらうには、本物の機械や蒸気機関車を見せちゃうのが近道だ! というわけで、世界中から優れた品物を集めて、見せることになった。これが万博の始まり。万博がきっかけとなり自由に貿易をする気運が世界中に広がった。

*銀行の創設 産業をおこすために工場を新しく造ったり、設備を整えるには多額の資金が必要。銀行ができるとそのお金を借りることができるようになる。
*鉄道の建設 原料や製品を大量に運ぶことができるようになるれば、いっそうモノが安くなるし、人々の交通が活発になれば産業も盛んになる。

